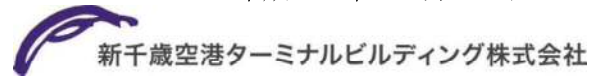


平成29年11月17日



## 新千歳空港国際線旅客ターミナルビル施設再整備について

新千歳空港国際線旅客ターミナルビルは2010年3月より供用を開始しておりますが、2016年度の国際線旅客数は272万人に達し、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催され今後とも更なる需要が見込まれることから、国が進めている新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業と協調し、施設再整備を行うことと致しましたので、お知らせ致します。

今後も刻々と変化する多様なニーズに適したサービスを提供すべく、すべてのお客様にご満足を頂ける魅力ある空港づくりを目指してまいります。

### 1. 主な工事内容

- ・出発ロビー及び到着ロビー等の施設拡張
- ・チェックインカウンター及び保安検査レーンの増設
- ・テロ対策などのセキュリティ強化
- ・免税店等の商業施設の拡充
- ・ターミナルビル附属ホテルの新設
- ・出国エリア及び入国エリアの施設機能強化（国の整備）

### 2. 事業費

約650億円 ※官庁エリア除く

### 3. 延床面積

ターミナル部分 約124,000㎡ ※官庁エリア含む

ホテル部分（4階から8階） 約20,500㎡

※既存ターミナル部分 地上4階建て 約61,000㎡（※官庁エリア含む）

### 4. フロア計画

階 層	主な用途
1階	車寄せ・手荷物荷捌場
2階	到着ロビー等
3階	出発ロビー等
4階	ラウンジ・商業施設・ホテルフロント等
5～8階	ホテル客室

## 5. 施設概要

内 容	現施設	再整備後
チェックインカウンター	47ブース	74ブース
保安検査レーン	4レーン	9レーン
旅客搭乗橋（PBB）	8基	17基 ・既存施設 3基 増設 ・増築施設 6基 新設
出発荷捌搬送設備	2基	5基
到着荷捌搬送設備	2基	5基

## 6. ホテル概要

- ・海外からの富裕層をターゲットにした高級ホテル
- ・温浴施設や高級レストラン、スパなどを併設
- ・スタンダードルームから最上級スイートまで、約180室の客室を計画

## 7. 供用開始時期

工事は2020年3月末までを予定しているが、工事が完了した部分より供用する。

- ・旅客取扱部供用開始 : 2019年8月
- ・ホテル部供用開始 : 2020年1月

## 8. 施工者（建築・設備工事）

A工区（旅客ターミナルビル増築、ホテル）

: 大林・戸田・萩原・伊藤・田中・菱中 特定建設工事共同企業体

※代表企業：㈱大林組

B工区（旅客ターミナルビル増築）

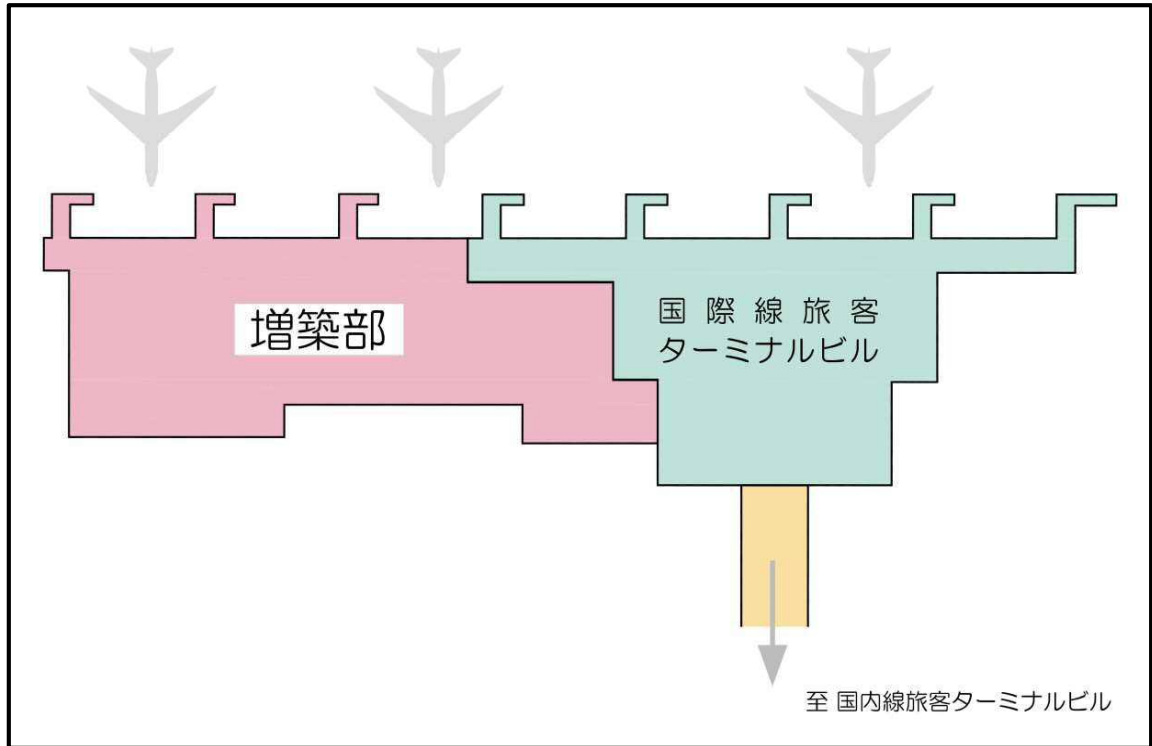
: 岩田地崎・JALファシリティーズ・阿部 特定建設工事共同企業体

※代表企業：岩田地崎建設㈱

C工区（既存旅客ターミナルビル改修を含む増築）

: 大成・宮坂・山崎 特定建設工事共同企業体

※代表企業：大成建設㈱



国際線旅客ターミナルビル増築部



国際線旅客ターミナルビル増築部 チェックインロビー



国際線旅客ターミナルビル エプロンサイドからの増築部鳥瞰



国際線旅客ターミナルビル ランドサイドからの増築部鳥瞰

【問合せ先】

新千歳空港ターミナルビルディング株式会社 総務課 長谷川  
(TEL) 0123-46-5100 (FAX) 0123-46-2800  
mail : yoshichika.hasegawa@ncat.co.jp

報道関係者 各位

新千歳空港ターミナルビルディング株式会社  
総務部 総務課

## 新千歳空港国内線旅客ターミナルビル 施設整備工事完了について

平成27年3月に着工いたしました「新千歳空港国内線旅客ターミナルビル施設整備工事」について、平成30年7月末をもちまして工事が完了いたしましたので、下記の資料にてご案内させていただきます。

記

- ・【新千歳空港国内線旅客ターミナルビル施設整備 整備概要】 一部（8頁）

以 上

---

新千歳空港ターミナルビルディング株式会社 総務課（広報担当）長谷川  
（TEL）0123-46-5100 （FAX）0123-46-2800

---

---

新千歳空港国内線旅客ターミナルビル施設整備  
整備概要

---

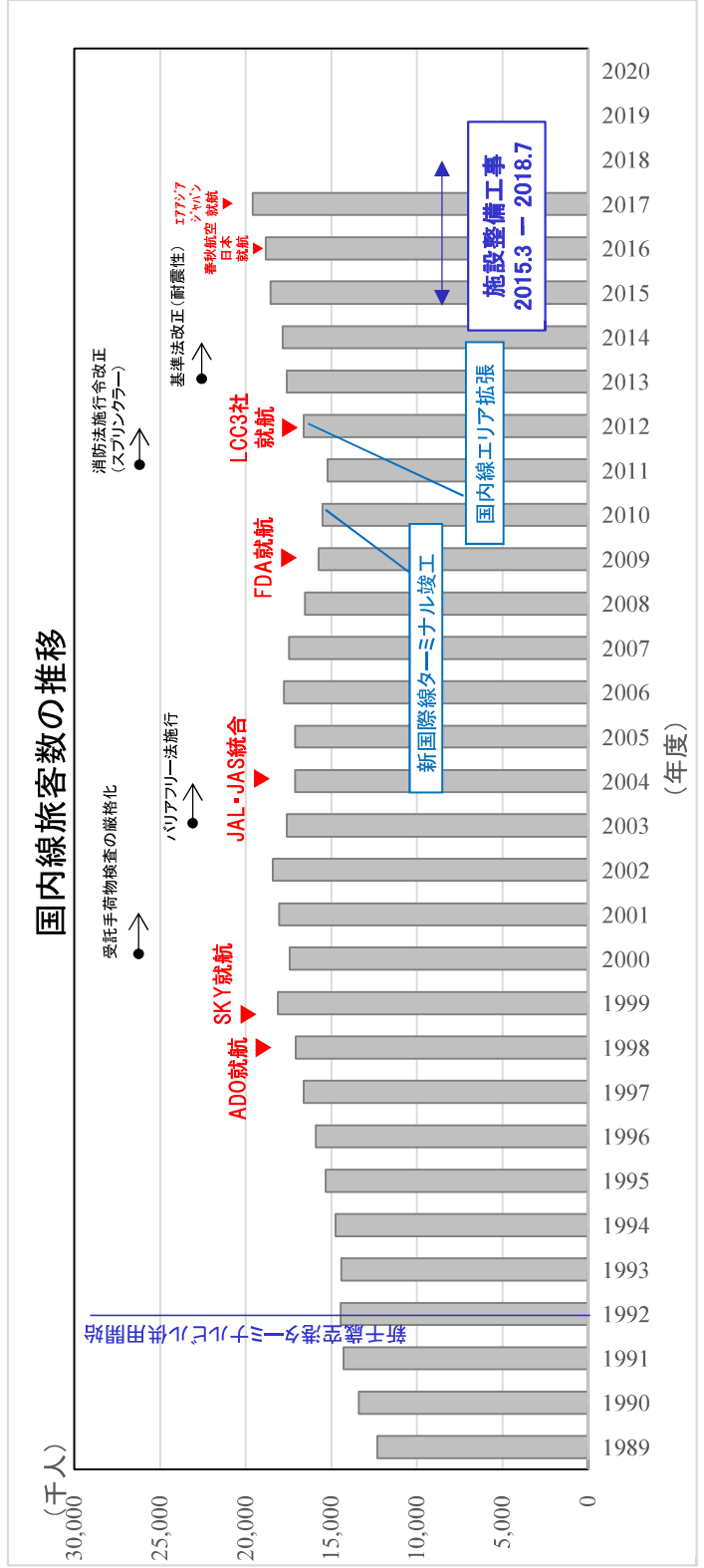
---

平成30年7月



# 1. 計画の背景・経緯

- 国内線旅客ターミナルビルは1992年に供用を開始した。当時の日本の航空輸送は日本航空(JAL)、全日本空輸(ANA)、日本エアシステム(JAS)の3社を中心として担われており、本ターミナルビルは、この3社の要望に応じ3つの独立したターミナル機能を有するユニットに、国際線エリアを加えた構成で設計・構築した。
- その後の航空業界の規制緩和により、当空港においても98年以降、エア・ドゥ(ADO)やスカイマーク(SKY)、フジドリームエアラインズ(FDA)等の新規航空会社が参入、加えて2012年には格安航空会社(LCC)が相次いで参入するなど、12年時点で8社の航空会社が就航することとなった。
- このような状況を受け、2010年に新設した国際線旅客ターミナルビルに機能を移転し空き区画となった国際線エリアを改修し、国内線エリアとして機能拡張を実施したが、竣工後20年を超え、その間に受託手荷物検査の厳格化等によるロビースペースの狭隘化(検査待ち行列によるロビースペースの占有)が発生し、またバリアフリー法等、航空会社ごとのサービスの多様化への対応等が各種法改正が進み、更にチェックインの自動化やチケットレス等、航空会社ごとのサービスの多様化への対応等が必要となる状況となっていた。
- そこでこれらを踏まえ、航空会社や国などと協議を重ねた結果、今回の国内線旅客ターミナルビルの改修工事(施設整備工事)を実施することとなった。



## 2. 整備項目

### ①旅客取扱施設の再配置

既存航空会社の統合や新規航空会社の相次ぐ就航により不均等となった諸施設(チェックインカウンター、保安検査場、荷捌場等)を旅客取扱量に応じ、再配置を実施した。

### ②インライン方式の手荷物搬送設備を導入

受託手荷物の検査方式としてインライン方式(受託後の搬送設備に組み込まれた機器による検査)を導入。最新基準の検査機器を導入しセキュリティを強化するとともに、カウンター前の滞留スペースを確保した。

### ③出発ロビー及び搭乗待合室の拡充

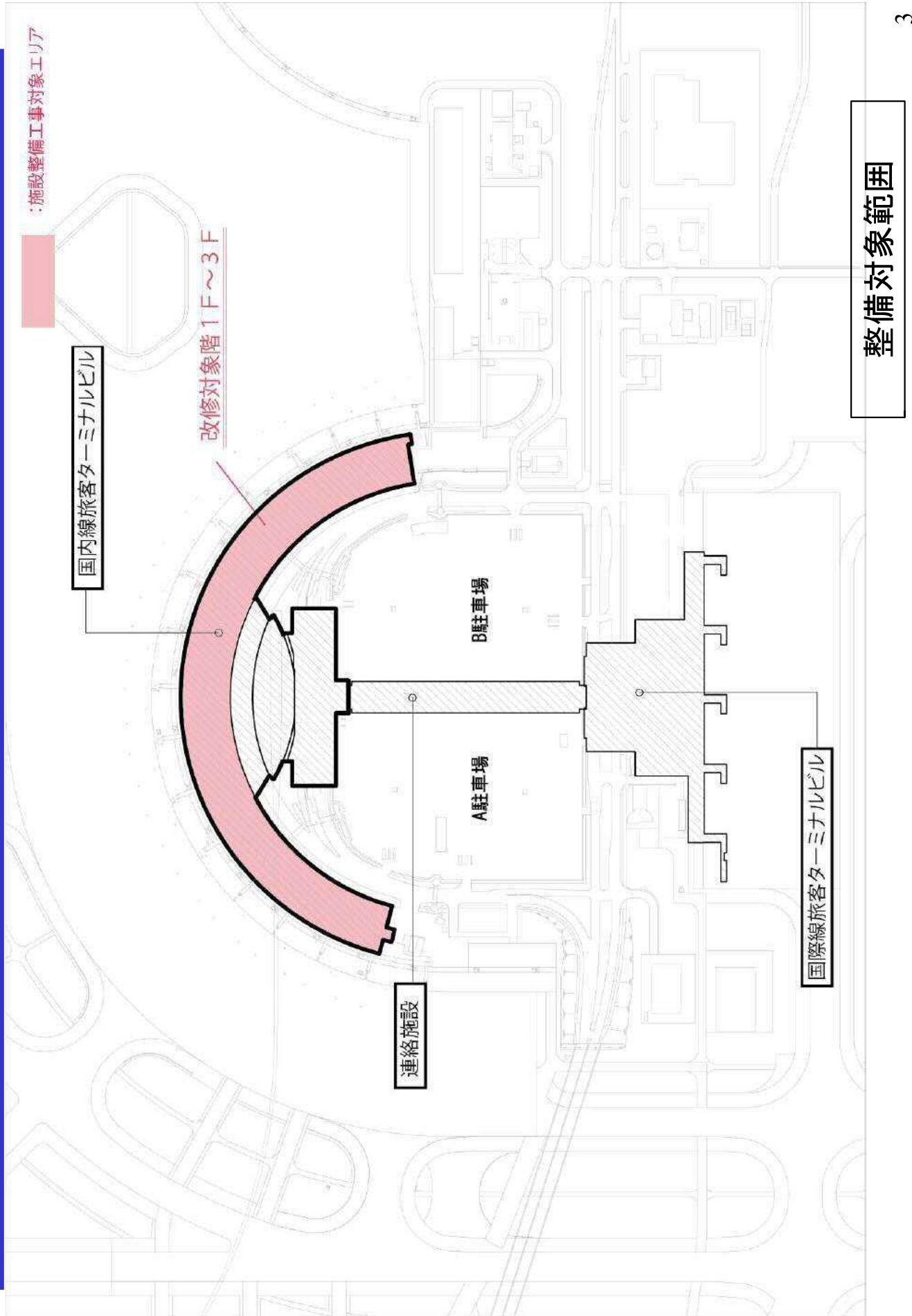
カウンター再配置を考慮し、出発ロビーを拡充。また、搭乗口配置を考慮し、搭乗待合室を拡充、バスラウンジ(ランプバス用の待合室)を南北に新設した。

### ④保安防災等の強化 他

法規改正・基準強化に適応した天井の耐震化やスプリンクラー設置工事等を実施した。またトイレや授乳室などのユーティリティ施設を誰でも使いやすいするための整備を行った。

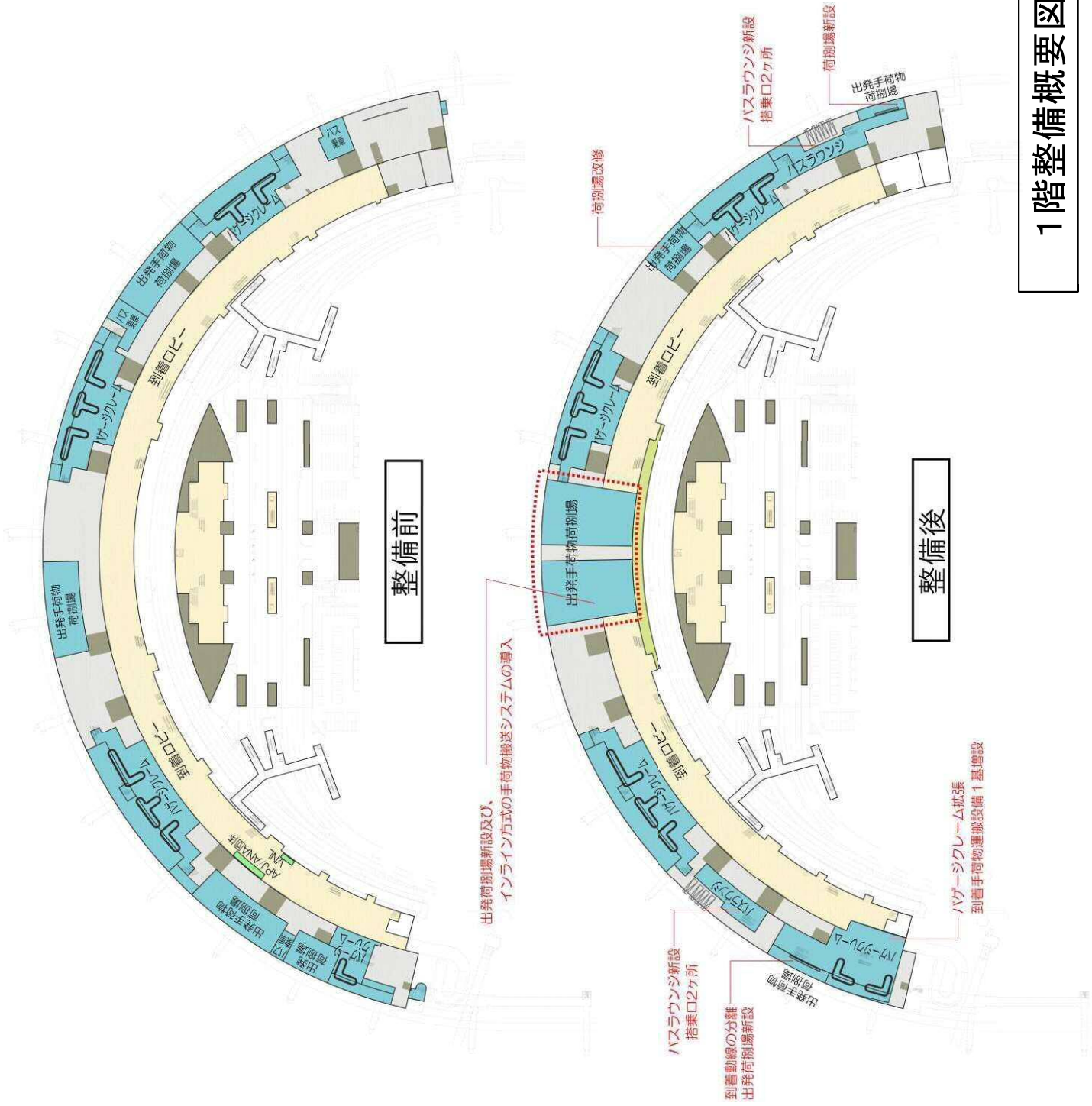


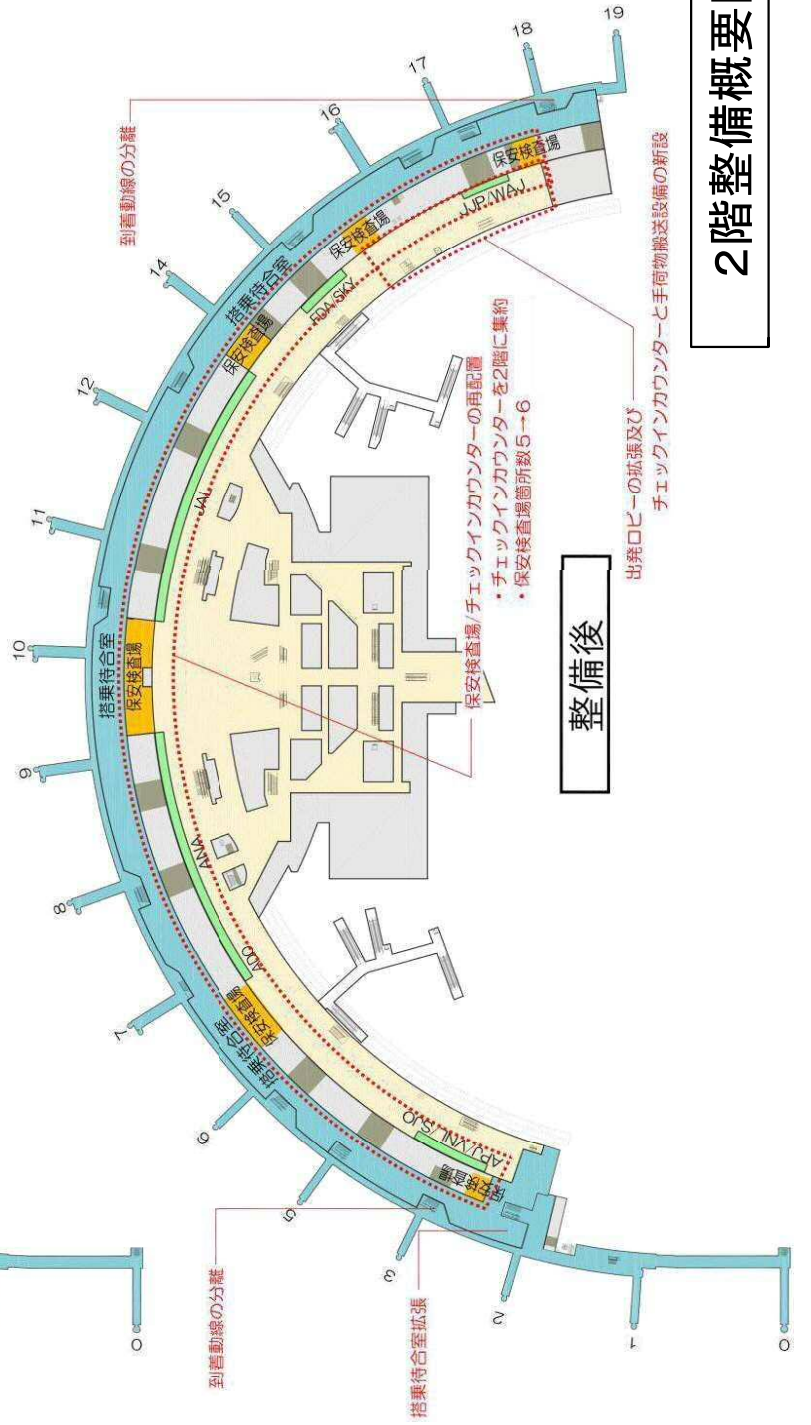
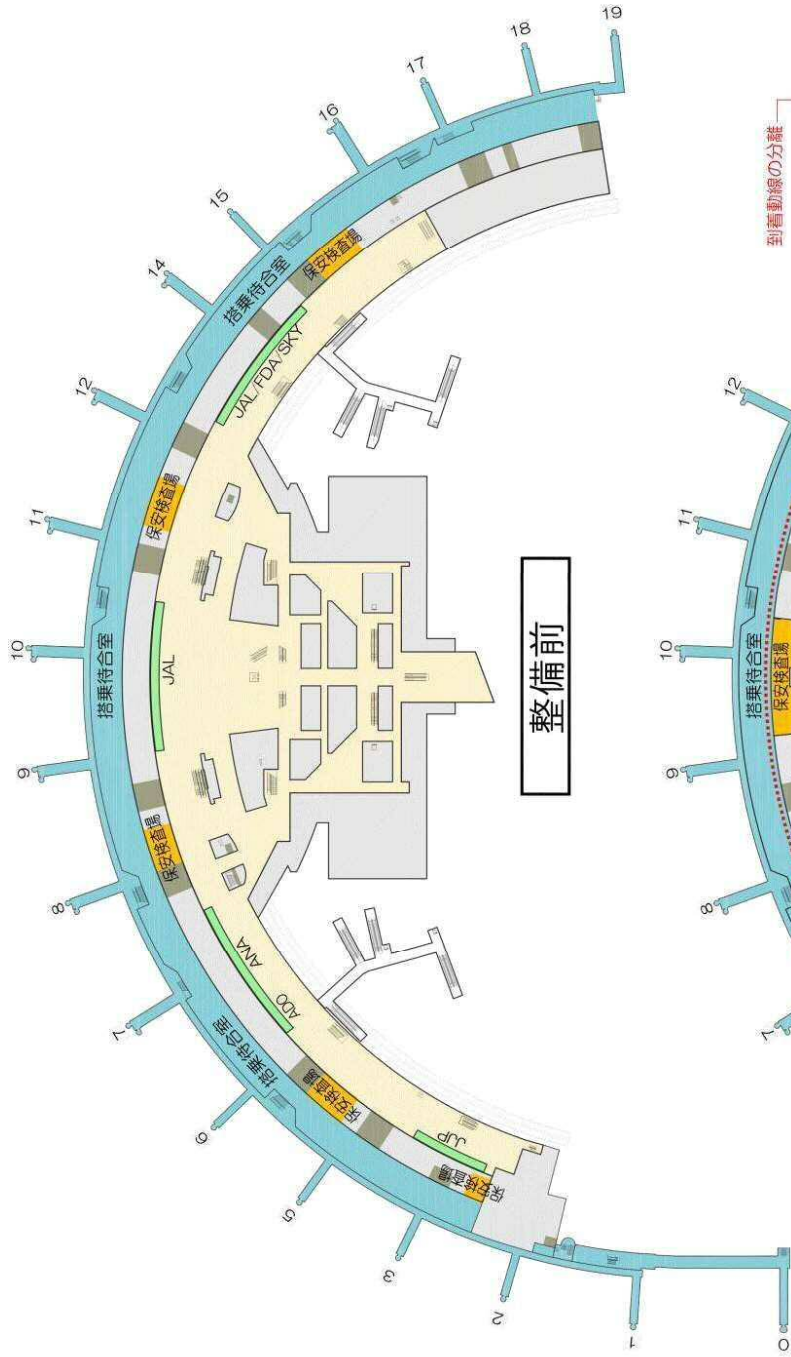
### 3. 施設整備概要図



整備対象範囲

# 1階整備概要図





**2階整備概要図**

## 4. 整備スケジュール

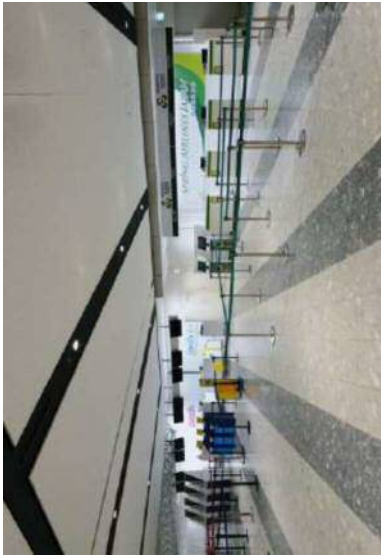
工期：2015年3月～2018年7月末

2018年6月現在

工事区分	主な整備内容	2014			2015			2016			2017			2018					
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
工事区分 1	準備工事																		
工事区分 2	SKY・FDAカウンター移転 南側出発ロビー拡張 南側バスラウンジ新設																		
工事区分 3	JALラウンジ拡張																		
工事区分 4	JALカウンター移転																		
工事区分 5	中央保安検査場新設 ANAカウンター移転 ANAラウンジ拡張																		
工事区分 6	ANA団体・ADO・LCCカウンター移転 北側バスラウンジ新設																		



## 5. 完成写真



再配置したエアラインカウンター(ターミナルビル北側)



→ 計3枚



再配置したエアラインカウンター(ターミナルビル南側)



→ 計3枚



ビル中央部に設けた出発手荷物荷捌場



ビルの南北に設けたバスラウンジ



拡張した搭乗待合室







平成30年10月4日

## 「新千歳空港誘導路複線化」整備に着手

～新千歳空港における冬期安定運航を図る誘導路整備に着手～

北海道開発局では、新千歳空港で課題となっている冬期の安定運航（欠航や遅延の回避・軽減）を目的とした新たな誘導路整備として、「平行誘導路複線化」及び「末端取付誘導路複線化」に着手します。

新千歳空港では降雪シーズン（11月～3月）に欠航や遅延が多く発生しており、冬期の安定運航が課題となっています。

冬期における航空機の欠航や遅延は、除雪車両や駐機場へ引き返す航空機の動線が確保（誘導路が複線化）されていないことが一因となっていることから、複線化誘導路の整備を行い、冬期における航空機の欠航や遅延の回避・軽減を図ります。

この度、航空法第四十条による新千歳空港の施設に変更を加える告示があり、変更内容が決定しましたので、測量等に着手します。

整備箇所、内容については別添資料をご参照ください。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

港湾空港部 空港・防災課 課長補佐

日色 徳彦（内線 5632）

空港調査・防災専門官 福井 貴（内線 5645）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



# 冬期の安定運航を図る「新千歳空港誘導路複線化」

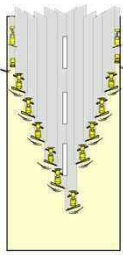
## 冬期における安定運航～欠航・遅延便の回避・軽減～

- 新千歳空港では降雪シーズン(11月～3月)に欠航や遅延が多く発生しており、冬期の安定運航が課題となっている。
- 除雪車両や駐機場へ引き返す航空機の動線が確保されていないため、滑走路の閉鎖時間が長引き、冬期における航空機の欠航や遅延の一因となっている。
- 末端取付誘導路及び平行誘導路を整備（複線化）することで、除雪等による滑走路閉鎖時間を短縮し、冬期における欠航、遅延便の回避・軽減を図る。

### 整備前

① 冬期の滑走路除雪では、運用中の滑走路から航空機が絶えず通行するため、除雪終了後においても、除雪車両の滑走路末端部での待機が生じ、滑走路の閉鎖時間が長引く。

< 除雪体制 >



② 離陸機が「ホールドオーバータイム※切れ」などにより、駐機場に引き返すこと(グラウンドターバック)となった場合、駐機場まで戻る動線が確保されていないため、滑走路を走行(占有)しなければならない。

※ 航空機に散布する防氷液の効果時間

### 主な整備効果

#### < 末端取付誘導路複線化 >

- 除雪車両の待機時間の短縮による滑走路の早期解放
- 航空機の通行の影響を受けることなく、除雪車両が移動できることにより、滑走路の早期解放(閉鎖時間の短縮)が可能となる。

#### < 平行誘導路複線化 >

- グラウンドターバンバック便による滑走路閉鎖の回避
- 滑走路を通行(占有)することなくグラウンドターバンバックが可能となり、滑走路閉鎖(他の航空機の離着陸の妨げ)を回避することができる。





# 「新千歳空港誘導路複線化」整備概要

## 「新千歳空港誘導路複線化」

- 末端取付誘導路複線化（北側・南側）〔期間：平成30年度～平成34年度予定〕
- 平行誘導路複線化（消防庁舎等移転含む）〔期間：平成30年度～平成37年度予定〕

